



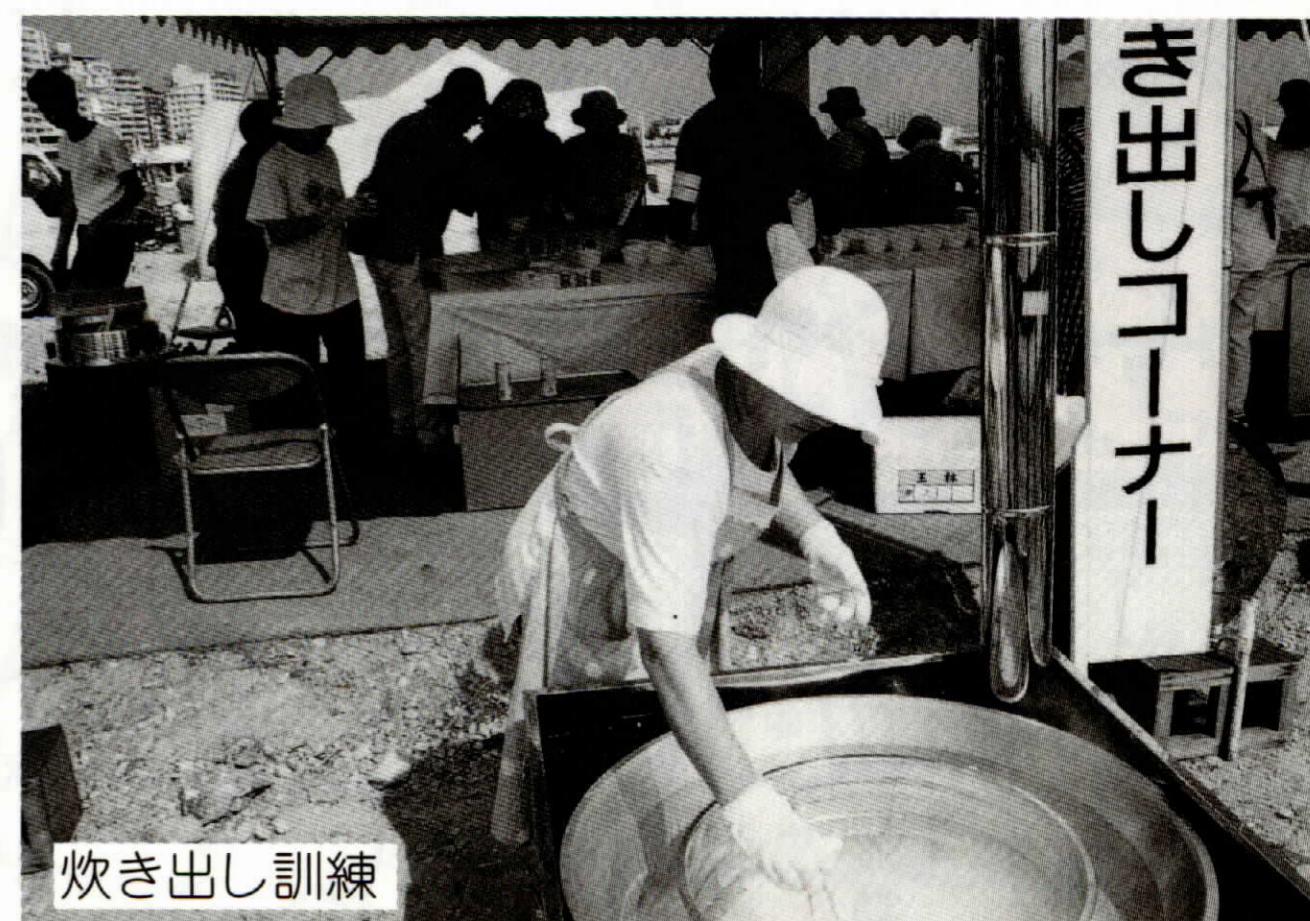
完成した山腹工事

## 災害への備えは お済みですか？

災害、特に地震、火災、風水害などは、私たちの予想もしないうちに襲ってきます。被害を最小限に食い止めるため、改めて「防災」への心がけを見つめ直しましょう。



市内中学生参加による水防訓練



炊き出し訓練

### 大雨に注意！！

梅雨や台風シーズンは、必ずといっていいほど大雨が降り、人命や家屋・交通機関等に多くの被害をもたらします。

本市では、5年に1回程度の大雨(50mm/時間)による浸水をなくし、また計画降雨<sup>注1)</sup>以上の降雨による浸水被害を少なくするために下水道事業を進めているところです。

しかしながら、近代の都市化による流出係数<sup>注3)</sup>の増加に対応して整備を行う必要があるため、長い期間が必要であることをご理解頂きますようお願いいたします。

#### 過去の大雨降雨量(mm/分間)

順位	50分	60分	120分	降雨年
1	85.5	100.5	138.0	平成元年9月豪雨
2	75.1	87.7	96.2	昭和13年阪神大水害
3	70.8	75.8	133.5	昭和42年7月豪雨
4	67.0	76.0	90.0	平成9年7月豪雨
5	55.5	56.5	60.0	昭和53年9月豪雨

#### 過去の大雨降雨強度(mm/時間換算)

順位	50分を換算	60分	120分を換算	降雨年
1	102.6	100.5	69.0	平成元年9月豪雨
2	90.1	87.7	48.1	昭和13年阪神大水害
3	85.0	75.8	66.8	昭和42年7月豪雨
4	80.4	76.0	45.0	平成9年7月豪雨
5	66.6	56.5	30.0	昭和53年9月豪雨

大正13年から平成10年までの降雨  
神戸海洋気象台・芦屋市雨量計データによる。

平成9年7月13日豪雨(80.4mm/時間換算)では、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

注1) : 本市の計画降雨強度は、流達時間<sup>注2)</sup>が10分から50分ですので、50分間降雨を1時間に換算したものです。

注2) : 流達時間とは降雨が排水区の最遠点から河川・ポンプ場に流下してくるまでの時間のことです。

注3) : 流出係数とは降雨水量に対して管路に流入する水量の比のことです。

### 下水道の役割

下水道管には、汚水を流す汚水管と雨水を流す雨水管、汚水と雨水を同じ管で流す合流管があります。

汚水管の大きさは、水道の使用量により決められています。汚水管に、雨水を流せば雨天時に汚水マンホールより溢れてしまいます。また雨水管に洗濯水や建築工用のペイント・モルタルを流しますと、放流先の河川の環境を破壊します。管の役割を守り正しい使用をお願いいたします。

### 雨水浸透施設の普及は安全なまちづくりに役立ちます。

本市では、流出係数を0.5とし雨水整備を行っています。近年、都市化により、屋根の面積が増加し、緑地の面積が減少しています。その結果、降った雨が一度に勢よく市街地に流れてくるようになっていきます。雨水浸透施設は、雨水の流出量や流下速度を緩やかにし、ときとして起こる大雨による浸水被害を減少させ、安全なまちづくりに貢献します。また、地下への雨水浸透により大地を潤して、緑あふれる環境づくりに役立ちます。

宅内雨水樹の浸透樹化、駐車場・ガレージの浸透式舗装など、ご協力をお願いいたします。

### 風水害に備えて

突発的な局地的集中豪雨のような予測の難しい場合もありますが、台風や大雨はある程度まで時期や規模を予測することができます。

- 気象庁が発表する警報や注意報に耳を傾けて、**正確な気象情報を集め**ましょう。
- 台風や熱帯低気圧などの通過により、**高潮**が発生する恐れもありますので、海岸付近の人は注意しましょう。
- 屋根、雨どい、雨戸、外壁、ブロック塀、窓ガラスなどの様子や、ベランダに置いてある物(植木鉢や雑品)も**事前にチェック**しておきましょう。
- 側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の**排水を良く**しておきましょう。

油断することなく万全の備えを!!

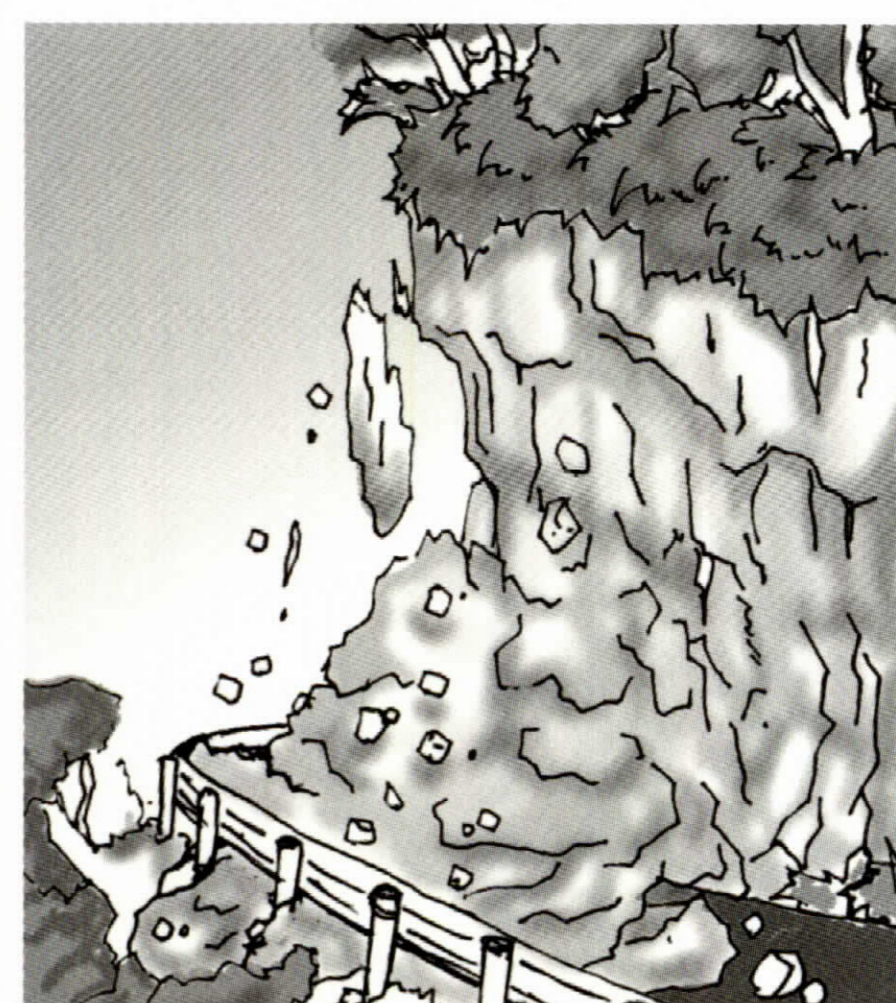
### 土砂災害にも注意

#### 土石流



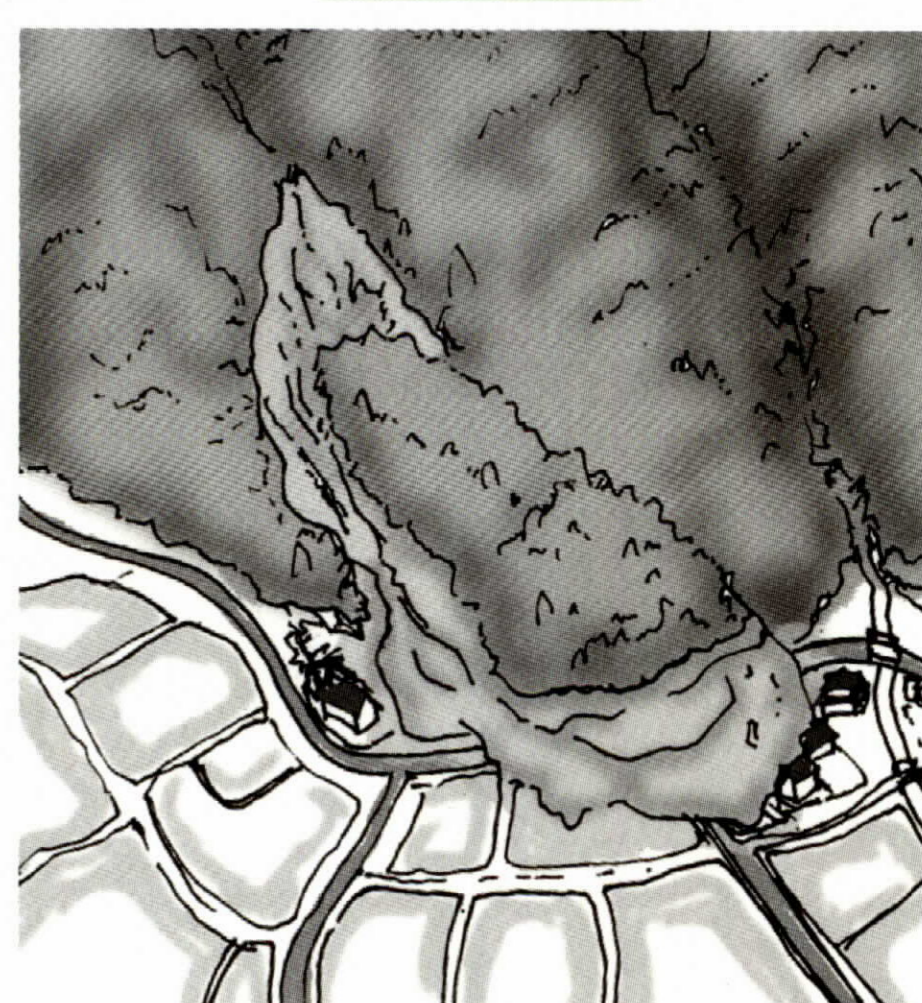
谷や斜面にたまった土砂が豪雨によって水と共に一気に流れ出す。

#### 崖くずれ



雨水がしみ込み弱くなった斜面が、突然、瞬時に崩れ落ちる。

#### 地すべり



比較的緩やかな斜面が地下水の影響で滑り落ちる。

#### 前兆現象

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 川が濁ったり流木が流れる。
- がけからの水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- がけから小石が落ちてくる。
- 斜面にひびわれが入る。
- 地鳴りが聞こえる。
- 斜面から水がふき出る。

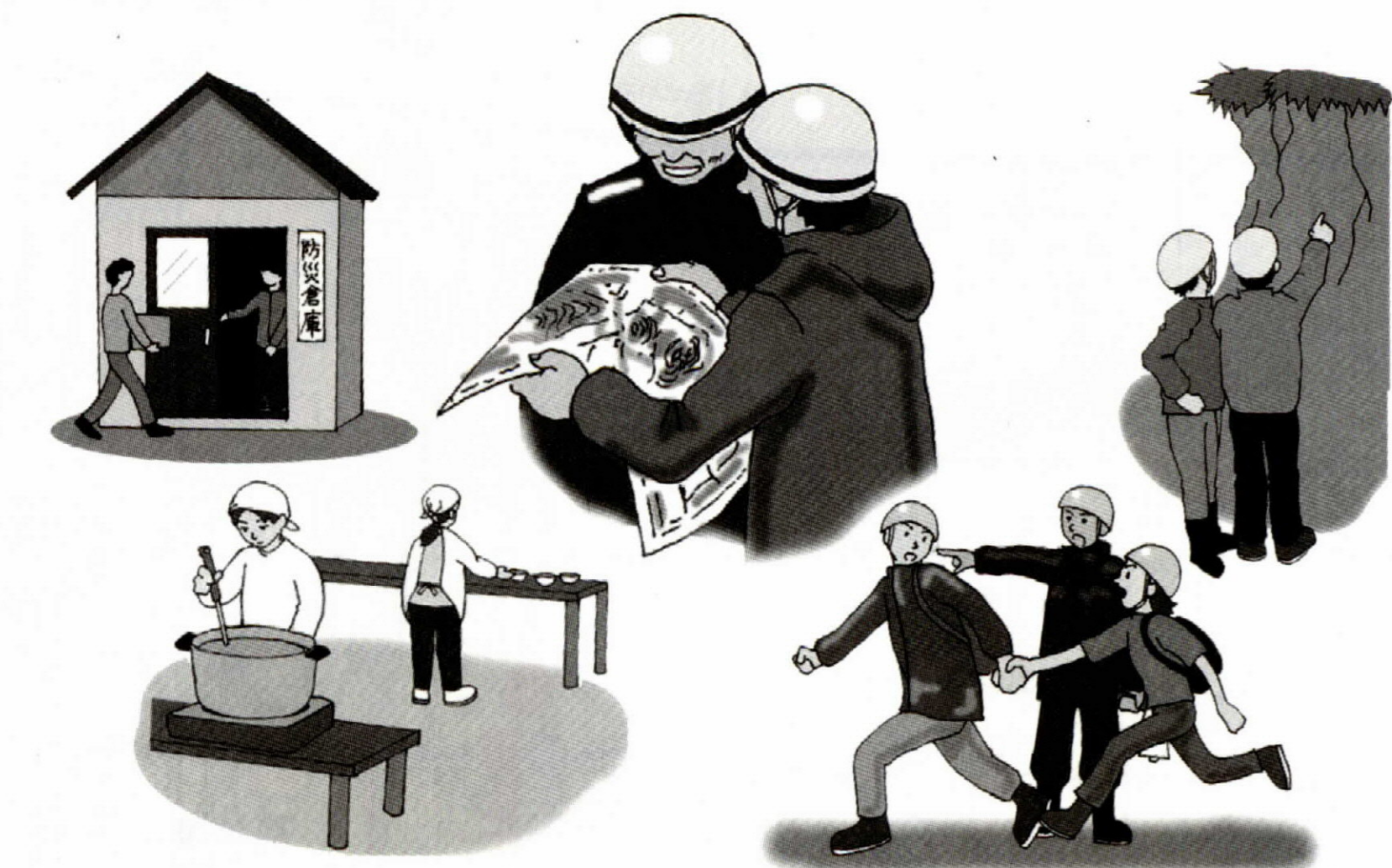
## 安全で安心して暮らせる地域をめざして 自主防災組織をつくりましょう

地域の人たちがその地域をわがまちとして愛し、互いに協力してこそ真に災害に強いまちができあがりません。

家族や近隣の住民、さらにはボランティアによる救助・救援活動が大きな効果と成果を発揮することは、先の阪神・淡路大震災において実証されています。

災害による被害を最小限にするため、日ごろから地域の自治会・町内会などの人々との交流を通じて自主防災組織をつくりましょう。

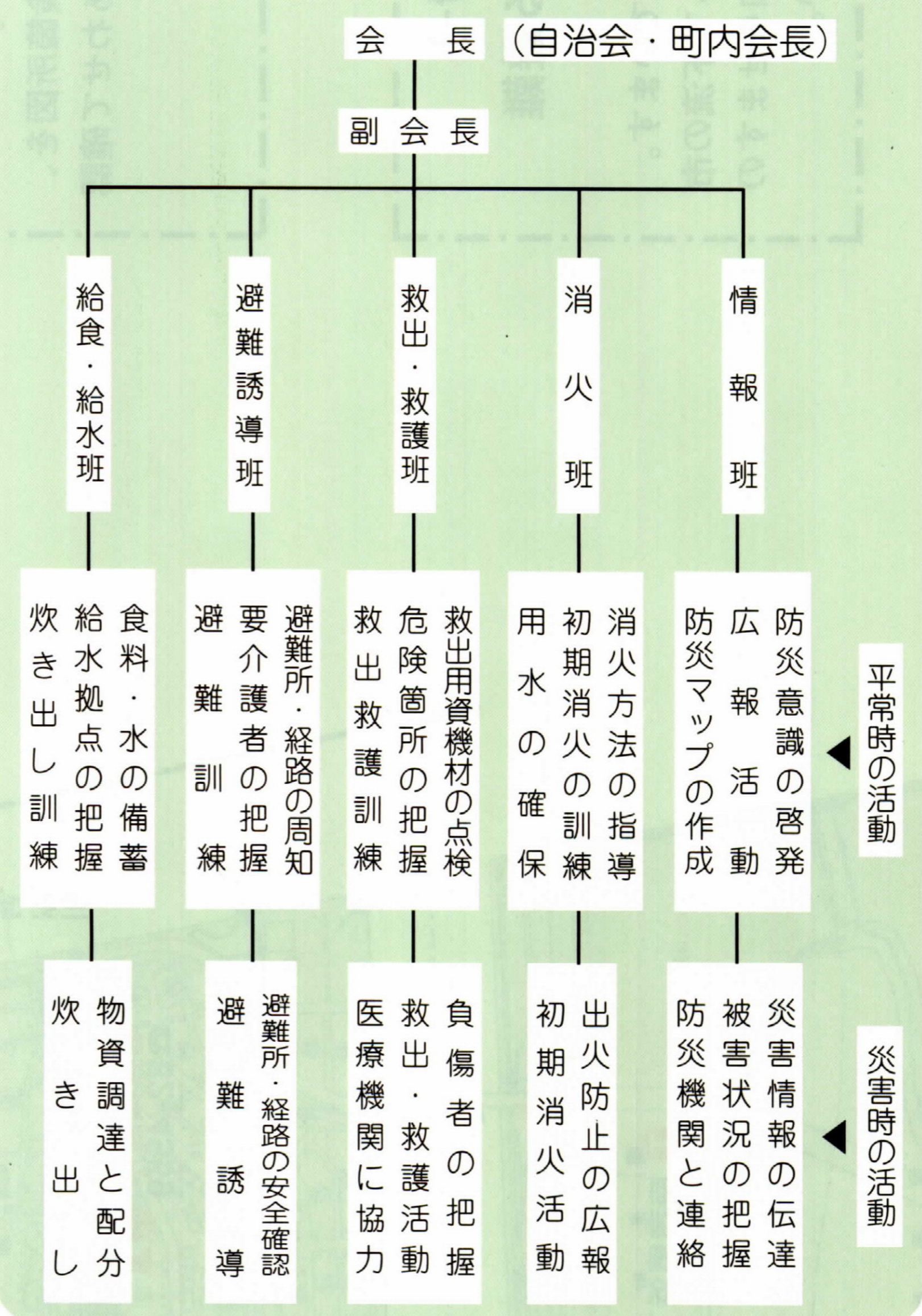
問い合わせ、相談は防災対策課へ。



# 自主防災組織

自主防災組織を構成するのは、その地域に住んでいるみなさんなのです。しかし、個人個人の力は小さくて、いざという時には協力し合う組織の対応が必要になります。まさに、「向こう三軒両隣り」の近隣の連帯意識が大切であり、それが自然に自主防災組織を育むといえます。

### 自主防災組織の編成と役割 (例)



## 地震発生！そのときあなたは

地震の時は、一瞬の判断が生死を分けることもあります。最初の1分間は身の安全確保が第一。

あわてず冷静な行動をしましょう。

●急いでテーブル、机、ふとんなどの下にもぐり**身の安全を守る**。

あわてて外に飛び出さないのが大切。

●揺れが小さい場合は、ただちに**火の始末**をし、コンセントを抜きましょう。

●ドアや窓が変形して開かなくなることがあるので、揺れの合間を見てドアや窓を開けて、**逃げ道を確認**しましょう。特に中高層住宅の場合は忘れずに。

●避難勧告、指示があった場合は急いで**避難**しましょう。勧告や指示がなくても、危険を感じたとき、または火災が発生したときはただちに避難してください。

●災害時は誤った情報が流れることがあります。対応を間違わないためにも、ラジオなどで**正しい情報**を入手しましょう。

## 火災発生！そのときあなたは

火事が発生したときは、あわてずに行動しましょう。

●「火事だっ！」と大声を出して、周りの人に助けを求めよう。

小さな火事でも、ただちに「119番」。

●出火したら、落ち着いて素早く行動し、消火器や水だけでなく毛布など手近のものも利用して消火にあたる。

●天井まで火が燃え移ったら消火は困難。いさぎよく避難しよう。避難するとき余裕があれば、燃えている部屋のドアや窓を開けて少しでも延焼を防ぐ。

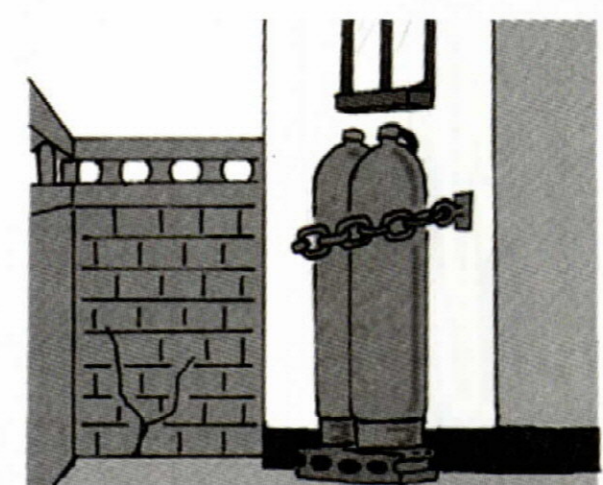
## 避難所一覧表

名称	所在地	電話番号
奥池集会所	奥池南町 34-4	32-0763
山手中学校	三条町 39-10	32-1122
西山幼稚園	西山町 22-15	32-5457
前田集会所	前田町 8-17	23-3899
山手小学校	山手町 8-3	32-1113
市立芦屋高等学校 (体育館のみ)	剣谷 9	32-1131
大原集会所	大原町 20-2	38-7782
市民センター	業平町 8-24	31-4995
上宮川文化センター	上宮川町 10-5	22-9229
朝日ヶ丘小学校	朝日ヶ丘町 10-10	32-1115
朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘町 30-9	23-4896
岩園小学校 (工事中・体育館のみ)	岩園町 23-41	32-1114
岩園保育所	岩園町 2-18	31-0335
芦屋大学附属中・高等学校	六麓荘町 16-18	31-0666
翠ヶ丘集会所	翠ヶ丘町 9-15	22-2475
精道小学校	精道町 8-25	32-1111
市立体育館	川西町 15-3	31-8228
茶屋集会所	茶屋之町 8-20	32-1232
竹園集会所	竹園町 5-6	22-2484
伊勢幼稚園	伊勢町 13-14	31-8313
宮川小学校	浜町 1-9	32-1112
県立芦屋高等学校	宮川町 6-3	32-2325
小槌幼稚園	打出小槌町 15-7	22-4885
国立海技大学校	西蔵町 12-24	38-6202
打出浜小学校	新浜町 8-2	23-4581
精道中学校	南宮町 9-7	32-1121
春日集会所	春日町 13-17	32-5377
浜風小学校	浜風町 1-1	23-4591
浜風幼稚園	浜風町 1-2	31-1505
浜風集会所	浜風町 3-2	38-0960
新浜保育所	新浜町 1-1	32-0410
潮見小学校	潮見町 1-2	34-0721
潮見中学校	潮見町 20-1	34-1601
潮見集会所	潮見町 7-1	32-4359
合計	34か所	

## 自宅のチェック

## 家族で話そう わが家の防災

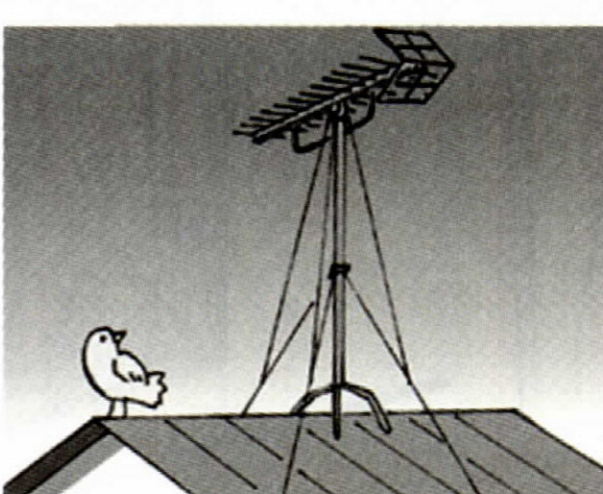
家とその周囲を注意深く点検し、落下や転倒の危険を取り除いておきましょう。室内にも危険はたくさんあります。ひとつひとつ無くしていきましょう。火災の発生を防ぐための設備もチェックポイントです。



○外装  
ひび割れはないか。  
プロパンガスのボンベは鎖でしっかりと固定されているか。



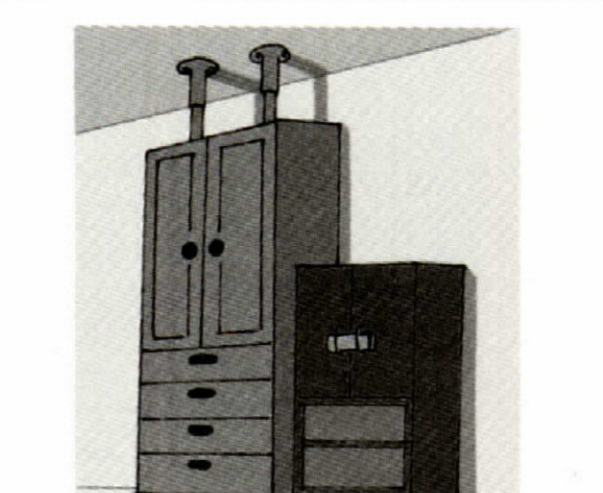
○ベランダ  
落ちる危険がある場所に植木鉢など物を置いていないか。



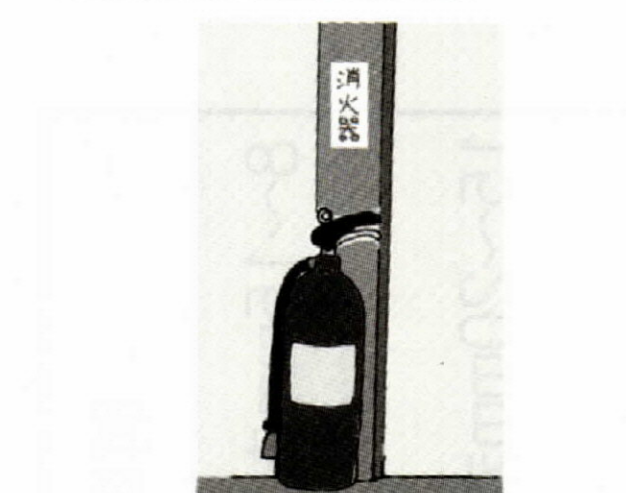
○屋根  
アンテナはしっかりと固定されているか。



○通路・廊下  
通行の妨げになるものを置いていないか。



○家具  
背の高いもの大型のものはしっかりと固定されているか。  
棚類は中の物が飛び出さないように工夫してあるか。



○消火用具  
消火器は設置されているか。

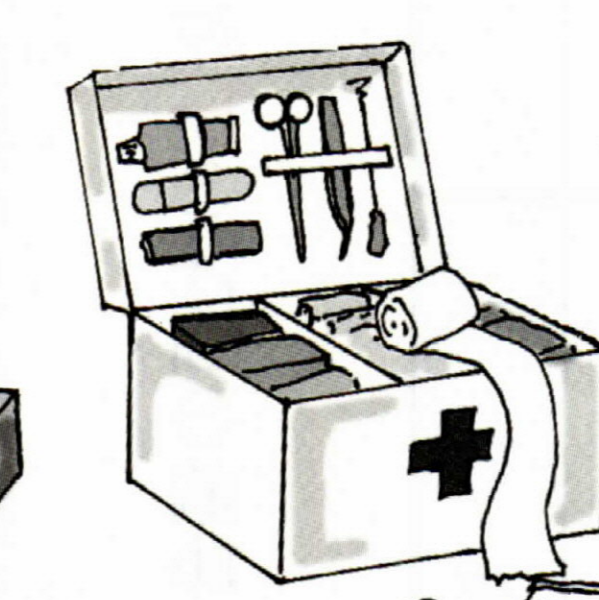
## 非常時持ち出し品の準備を

万一のときに備えて、非常時の持ち出し品を準備しておきましょう。



携帯ラジオ

ティッシュ

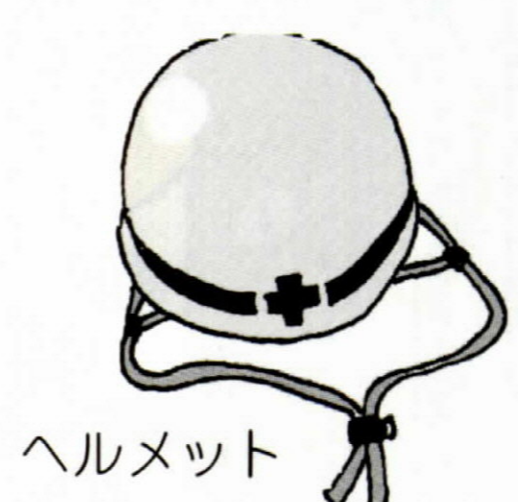


医薬品



衣服・下着

タオル



ヘルメット

貴重品



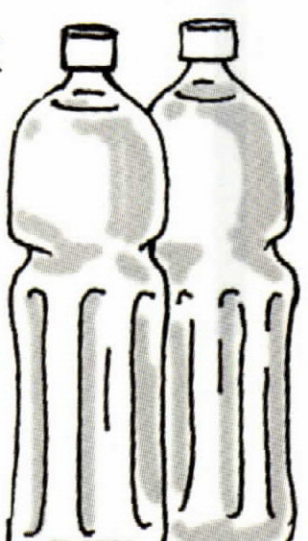
懐中電灯

サバイバルキット



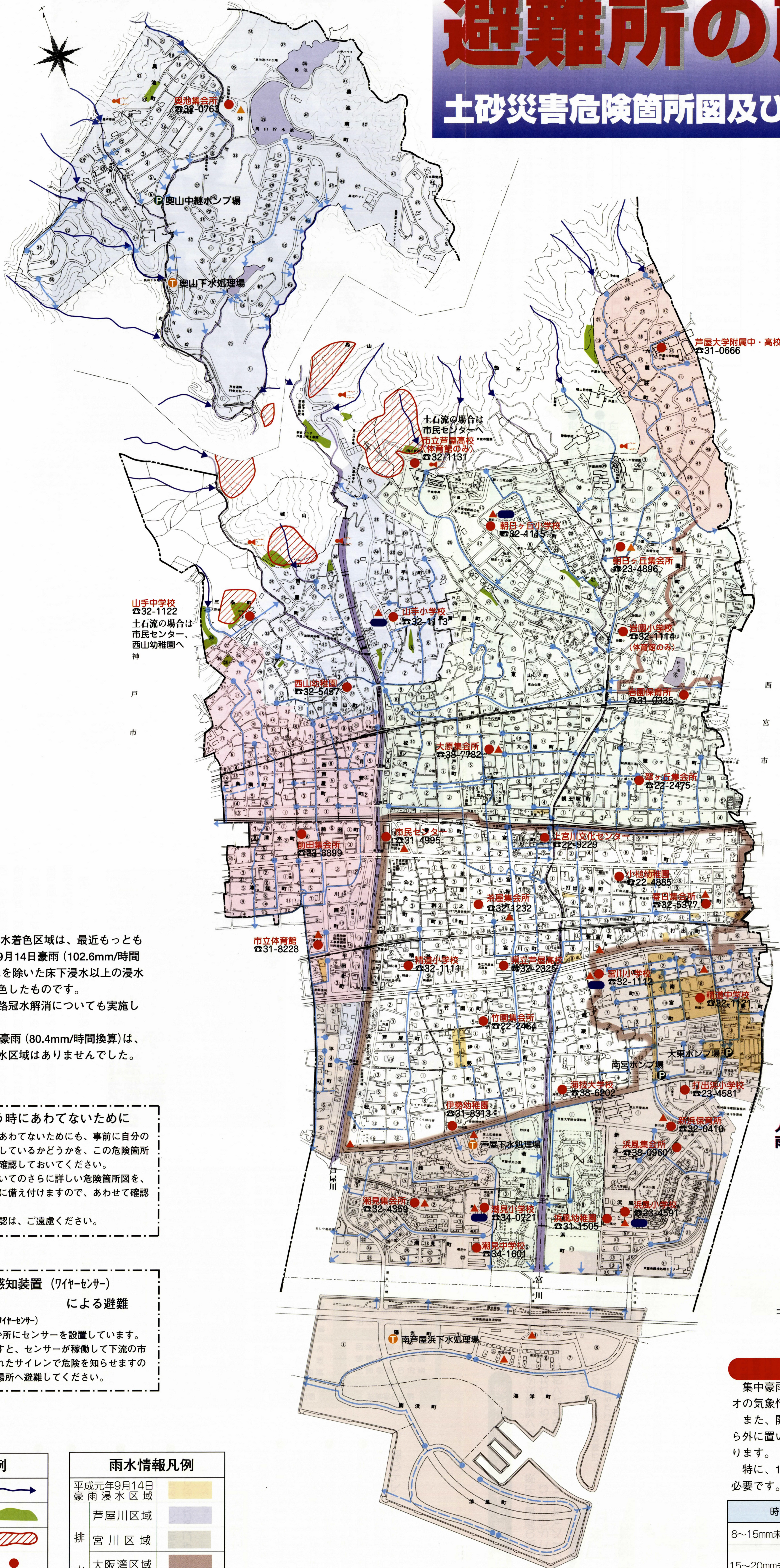
食料

飲料水



# 避難所の所在地

## 土砂災害危険箇所図及び浸水情報マップ



この浸水着色区域は、最近もっとも強かった平成元年9月14日豪雨(102.6mm/時間換算)で、道路冠水を除いた床下浸水以上の浸水があった街区を着色したものです。  
 雨水整備は、道路冠水解消についても実施しております。  
 平成9年7月13日豪雨(80.4mm/時間換算)は、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

**いざという時にあわてないために**  
 災害が発生した時あわてないためにも、事前に自分の家が危険地域に該当しているかどうかを、この危険箇所図を参考にし、よく確認しておいてください。  
 また、山沿いについてのさらに詳しい危険箇所図を、お近くの市公共施設に備え付けますので、あわせて確認してください。  
 なお、電話での確認は、ご遠慮ください。

**※土石流感知装置(ワイヤセンサー)による避難**  
 ○土石流感知装置(ワイヤセンサー)  
 特に危険な溪流7か所にセンサーを設置しています。土石流が発生しますと、センサーが稼働して下流の市街地付近に設けられたサイレンで危険を知らせてしますので、直ちに安全な場所へ避難してください。



### 雨の降り方に注意しましょう

集中豪雨などによる浸水被害に備えるため、テレビやラジオの気象情報に注意しましょう。  
 また、開口部と底部の面積が同じ空き缶を雨の降り始めから外に置いておけば、その深さのミリ数が降雨量の目安になります。  
 特に、1時間に50ミリ以上の大雨の場合には十分に警戒が必要です。

時間雨量の目安	降雨の状況
8~15mm未満(やや強い雨)	雨の降る音が聞こえる
15~20mm未満(強い雨)	地面一面に水たまりができる 雨の音で話が良く聞き取れない 寝ている人の半数ぐらいが気づく
20~30mm未満(激しい雨)	どしゃ降りになり傘をさしても濡れる
30~50mm未満(非常に激しい雨)	バケツをひっくり返したように降る
50mm以上(猛烈な雨)	滝のように降る

凡	例
土石流危険溪流	
がけ崩れ危険箇所	
山地災害危険箇所	
避難所	
土石流サイレン	
防災倉庫	
飲料消火兼用貯水槽	

雨水情報凡例	
平成元年9月14日豪雨浸水区域	
芦屋川区域	
宮川区域	
大阪湾区域	
合流区域	
夙川区域	
傍示川・津知川 森深江区域	
下水道整備済路線	
下水道整備予定路線	

本図は昭和63年4月に作製した基図を、平成10年3月一部修正したものです。